

障害のある人々の健康づくりのための運動・スポーツ及び体育の専門家を養成する

リハビリテーション体育学科

—あなたを待っている人がいます—

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院



リハビリテーション体育学科の沿革

- 平成元年 5 月 ・ リハビリテーション体育専門職員養成課程に関する委員会を設置
- 平成 2 年 3 月 ・ リハビリテーション体育専門職員（仮称）養成に関する委員会報告書を作成
- 平成 3 年 4 月 ・ リハビリテーション体育専門職員養成課程が 2 年間の課程で発足（厚生省告示第 58 号）
- 平成 11 年 4 月 ・ リハビリテーション体育学科に名称を変更

現在、当学科では障害のある人やそのおそれのある人等に対して、



を行うことのできる人材を養成しております。

■ リハビリテーション体育とは

肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者、内部障害者、知的障害者、精神障害者など、身体機能が低下した方を対象として、社会で積極的に生き生きと活動することができるよう、運動機能（体力）の向上、健康の維持・増進を図り、またスポーツを通じて生活の質（QOL：Quality of Life）を高めるために適切な運動やスポーツを指導・訓練する分野をいいます。



■ リハビリテーション体育が必要な背景

更生施設をはじめ身体障害者福祉センターなど各種の福祉施設では、病院などの医療機関で行われる医学的機能訓練とは異なった訓練が必要となります。すなわち、治療が終了した後に培わなければならない心身の健康維持・増進に重点をおいた機能訓練を意味します。そのため一定期間だけ訓練を行うという考え方ではなく、自ら進んで心身の健康を維持する方法を身につけていくという、生涯教育の視点を含む指導が行われなければなりません。

わが国には現在、身体障害児・者はおよそ325万人いると推計されています。その他、知的障害者や精神障害者も多く、年々高齢化、重度化、重複化が進んでいます。さらに一般高齢者が増加することなどから、保健や福祉分野における低体力者の心身の活性化や健康の維持・増進を図る専門的な訓練・指導サービスが各方面から待ち望まれています。

このように、日本の社会構造改革が推進される中で、リハビリテーション体育に対する社会からの要請はますます高くなると予想されます。



■ リハビリテーション体育の専門職員とは

主としてリハビリテーションの分野で、障害のある方等に対して、体育・スポーツを指導・訓練する者をリハビリテーション体育の専門職員とといいます。

このうち、国立身体障害者更生援護施設等においては、大学で体育学を専修する学科を修めた運動療法士という理学療法士以外の者が、身体障害者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操やその他の運動を指導する業務に従事しています。

また、障害のある方等に生活の質を高めるためのスポーツの指導やパラリンピック等の競技大会出場を目指して高度な練習やトレーニングを実施する専門的知識を持った者もいます。

現在のところ、リハビリテーション体育専門職は資格化された職種ではなく、あくまで医療・保健・福祉分野で心身に障害のある者若しくはそのおそれのある者（小児や成人）に対し、リハビリテーションのための運動及びスポーツの指導を専門とする者を総称して呼ぶものです。

理学療法によって獲得した移動能力を更に前進させ、社会生活やスポーツ活動に必要となるダイナミックで応用的・実用的な運動能力を喚起するための知識と技術を学習します。



水中訓練

水の特性を利用した体力づくりの方法を学びます。また、障害特性に合わせた泳法や安全管理の方法を学びます。水中では水深に応じて浮力が働くので、弱い筋肉でも運動が可能になり、適切に指導を行うことで、陸上では得られない効果が期待できます。



車いすによる走行訓練

車いすを使用して、安全に・効果的に・快適に移動する方法を学びます。適切な走行訓練を受けることによって、車いす使用者も自由に移動することが可能になります。



義肢や装具を装着して行う歩くことや走るための訓練

下肢に障害のある人が歩いたり走ったりするためには様々な技能が必要になります。義足や杖を使用して安全に・効果的に移動する方法を学びます。適切な訓練を行うことで生活、就労はもとよりスポーツ、レクリエーションへの参加の道も広がります。



障害のある人々が生活の場で自立した健康・体力づくりやスポーツ活動ができるように、トレーニング指導や健康管理指導、体力測定、助言をするための知識と技術を学習します。

障害のある人々の体力づくりや健康づくりを極める



体力測定

体力・健康づくりのための運動指導に欠かすことのできない運動負荷テストや体力測定の方法を学びます。

合わせて、安全で有効な運動プログラムを組み立てるために必要な呼吸循環器系のリスク管理の方法についても学習します。

各種の機器を使用して行うトレーニング指導

各種トレーニング機器を用いて、安全に・効果的にトレーニングを行う方法を学びます。

脊髄が傷つけられ下半身が麻痺した人でも、特別な装置を用いることで、さまざまなトレーニングが可能です。



健康管理指導

障害のある人々の生活習慣病予防、二次障害予防について学習します。

また、適切な負荷で運動が行えるよう運動処方を作成します。



障害のある人々の生活の質（QOL）の向上を図るために、アダプティッドスポーツ、レジャー・レクリエーションとしてのスポーツ、さらには競技スポーツに関する知識と技術を学習します。

アダプティッドスポーツ

Adapt（アダプト）には「適応させる」という意味があります。補助具やルールを工夫し、障害の有無を問わずに誰もが楽しめるように工夫されたスポーツについて学びます。障害のある人となない人が共にスポーツを楽しむことや実践しようとする意欲・技術・工夫について学習します。



レジャーとしてのスポーツ

家庭や学校、地域などスポーツ活動はさまざまな場面で行われます。スポーツを手段として楽しくからだを動かすことやレジャー教育、レクリエーション参加など余暇時間の活用方法について学びます。

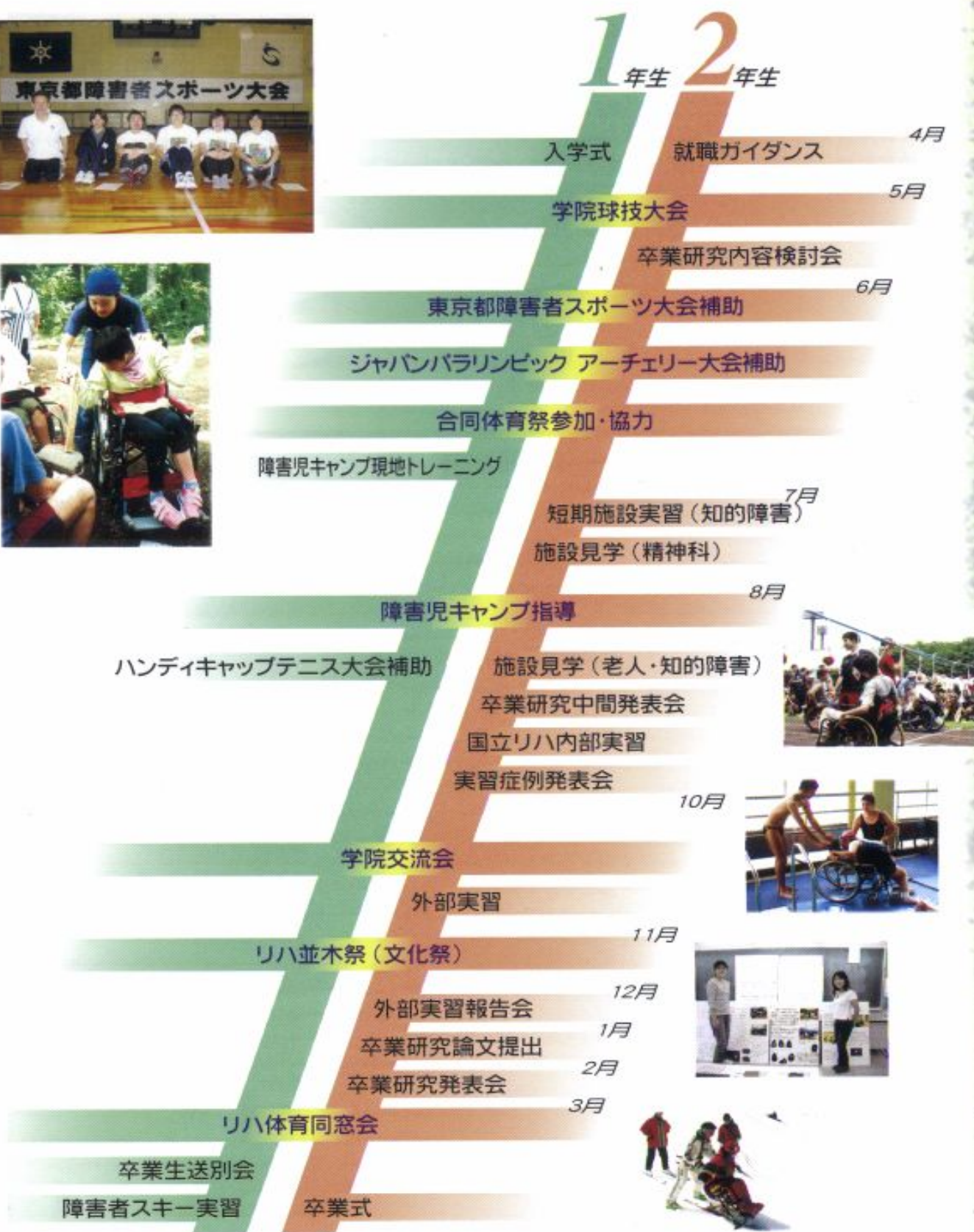


競技スポーツ

全国障害者スポーツ大会やパラリンピック大会をはじめとする、障害者スポーツの競技方法や規則について学習します。

国内や国際大会で活躍するアスリートの育成をします。

多彩な行事と実習の中から卒業後の進路が見えます



カリキュラム紹介

当学科のカリキュラムは、基礎科目、専門基礎科目及び専門科目の3つに分類されます。基礎科目は、統計学や心理学などの一般科目と生理学などのスポーツ関連科目から、専門基礎科目は、福祉・リハビリテーション関連科目と医学系科目及び体育原論関連科目で構成されます。専門科目は運動処方関連科目と運動指導関連科目で構成され、実技重視の視点から実習を含む講義の授業形式がとられています。指導（臨床）実習は、内部実習と外部実習に大別され、国立身体障害者リハビリテーションセンター病院をはじめ、国立更生援護機関、高齢者や知的障害者の施設、障害者スポーツセンター等で行われます。また、2年間の学業の集大成として卒業研究を実施しており、その内容は体力、指導方法、心理など幅が広く、かつ現場に即したものとなっています。



◆基礎科目◆

統計学
情報処理演習
障害者心理学
高齢者心理学
コミュニケーション概論
運動心理学
臨床心理学
神経心理学
生理学
生化学
解剖学
運動発達学
トレーニング原理
体力測定と評価
スポーツ栄養学
救急処置

◆専門基礎科目◆

リハビリテーション概論
リハビリテーション工学
理学療法・作業療法・言語療法
義肢装具論
社会福祉概論
障害者福祉概論
リハビリテーション医学
整形外科学
臨床神経学
内科学
病理学
小児科学・耳鼻咽喉科学
精神医学・眼科学
老年医学
運動学概論演習
医学的検査・診断法
リハビリテーション体育原理
リハビリテーション体育管理
スポーツ運動学
障害児保健体育概論
運動の解析学

◆専門科目◆

運動処方学概論
健康づくり運動の理論と実際
生活習慣病とその予防
運動負荷試験概論
運動負荷試験演習
運動プログラムの管理
心臓リハビリテーション
運動処方演習Ⅰ
運動演習Ⅱ
運動演習Ⅲ
運動処方実習
肢体不自由者指導演習
感覚障害者指導演習
知的発達障害者指導演習
精神障害者指導演習
高齢者指導演習
セラピューテック・レクリエーション概論実習
野外活動Ⅰ
野外活動Ⅱ
競技・種目別指導演習
競技大会演習
特別講義
見学実習
指導実習Ⅰ
指導実習Ⅱ
卒業研究

卒業後の進路



10期生 大原美里
東京都障害者総合スポーツセンター勤務

過去12年間の卒業生は102名を数え、卒業生は各方面で活躍しています。就職先は、高齢者施設、身体障害児・者施設、知的障害児・者施設、障害者スポーツセンターなどの福祉施設が最も多く、以下、健康増進関連施設、教育機関、病院の順となっています。その他、幼児施設、障害者スポーツ協会、保健所などに就職する人や、中には青年海外協力隊員として活躍したり、進学したりする人たちもいます。



7期生 鹿島 秀
群馬県医師会 沢渡温泉病院勤務

● 主 な 就 職 先 ●

一 般 施 設

香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター
名古屋市障害者スポーツセンター
さん・さんプラザ
東京都障害者総合スポーツセンター
長野県障害者福祉センター
社会福祉法人 太陽の家
アガベの里
青山彩光苑
黎明会澄水園
石川精育園
弘済学園
愛名やまゆり園
天竜厚生会
糸口学園
心身障害児総合医療療育センター
東京都障害者職業センター 多摩支所
デイサービスセンターオレンジの丘
医療法人社団龍岡会 龍岡老人保健施設
医療法人 海洋会
社会福祉法人 グリーンローズ・オリブ園
㈱メディカル・ウェルフェアサポート日高
千葉リハビリテーションセンター
社会福祉法人 にじの会 大沢にじの里
健康科学研究所
社会福祉法人 菜の花会 しもふさ学園

国 立 施 設

国立身体障害者リハビリテーションセンター
国立別府重度障害者センター
国立伊東重度障害者センター
国立秩父学園
国立職業リハビリテーションセンター

医 療 機 関

福岡リハビリテーション病院
公立森町病院
群馬県医師会 沢渡温泉病院
大角病院 通所リハビリテーションセンター
長野厚生連 鹿教湯三才山病院
医療法人社団 東京愛成会 高月病院
星総合病院付属 星ヶ丘病院
大分中村病院

学 校 教 育 機 関

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院
東京都立城北養護学校
東北福祉大学
東京都立赤坂高等学校
東京都立立川聾学校
東京都立公明養護学校
東京富士大学
白鷗大学足利高等学校

北茂安町立北茂安中学校
日本体育大学
茨城県立結城養護学校
愛知県立佐織養護学校
東北文化学園大学
大阪府立茨木養護学校
旭出養護学校
兵庫県立はりま養護学校

そ の 他

財神戸市障害者スポーツ協会
東京都障害者スポーツ協会
和歌山西保健所
飛島村すこやかセンター
健康増進関連施設他
㈱SUN
熊本健康・体力づくりセンター
NPO法人 元気寿命を創造する会
㈱リオスタッフ
社会福祉法人 長岡福祉協会
滋賀障害者職業センター
㈱フルマークス



13期生 内池 深咲

大学で生涯スポーツ課程に属し、野外教育を専攻してきた私は、障害者スポーツセンターでの実習や障害者スポーツ大会の補助、障害者スキー教室の指導補助や障害児のキャンプ指導に関わってきました。その中で、障害をもつ方にとっての身体活動やスポーツの内容が多種多様であり、また、多くの目的と意義を持つということを感じ、もっと深く知りたいという思いがこみ上げてきました。また、病気や障害を受け入れ、スポーツを始めようと考えられるようになるまでの手助けをしたい。精神的な支えにもなれるような仕事がしたいと願い受験しました。



13期生 清水 明日香

スポーツが好きで大学でもスポーツ科学を専攻し、学んできました。大学生活の中で地域のスポーツ活動を手伝う機会がたくさんあり、いろいろな経験をしました。スポーツ障害になり、どのように怪我から復帰して良いのか分からず、そのスポーツをあきらめてしまっている子や様々な障害がありながらスポーツを楽しんでいる人に出会い、スポーツを通して人と関わる仕事をしたいと思いました。また、大学であまり学ぶことのできなかった医学の分野をさらに学びたいと思い受験しました。



13期生 小林 岳雄

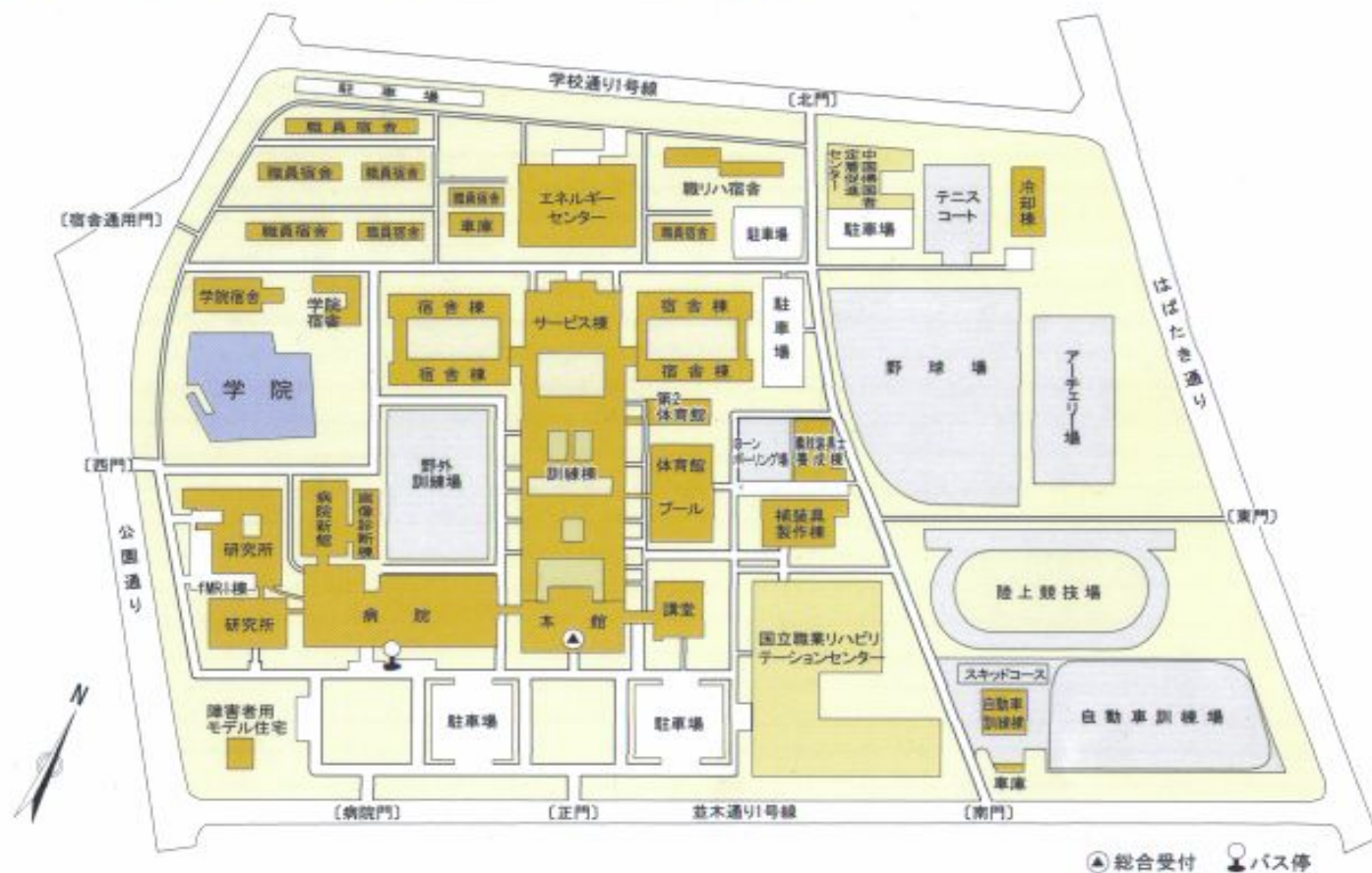
大学の授業で脊髄損傷者の歩行訓練の模様をみる機会がありました。私は、不慮の事故等で障害を負った人達が懸命にリハビリテーションを続け、歩けるようになっていく姿に感動し、そうした人達の力になりたいと考えました。また、大学における介護体験で養護学校に実習に行った時に脳性麻痺の子供達とふれあい、無邪気で人なつっこい彼らと共に勉強して、障害を持っても明るく、ひたむきな彼らに教わる部分が多く、障害を克服するお手伝いをしたいと思いました。リハビリテーションとしてのスポーツの指導を通して、多くの人の力になりたいと考え、受験しました。



13期生 三浦 雄高

自分自身、サッカーという種目を通して楽しさ、チームワーク、自分の体を知ることの素晴らしさを経験しました。大学卒業後、その思いを少しでも多くの人に伝えたいと思い、エジプトで障害児と接する仕事に就きました。エジプトでは、知識と指導経験の重要性を痛感する毎日が勉強の日々でした。そこで、日に日に障害者スポーツへの関心は高まり、スキルアップを強く望むようになっていました。言葉、民族、宗教が異なる彼らの生きざまを見ていて、スポーツが担う役割の重要性、必要性を感じ、同時にまだまだ多くの人々が運動することが出来る環境を求めているのだと言うことを感じ、受験しました。

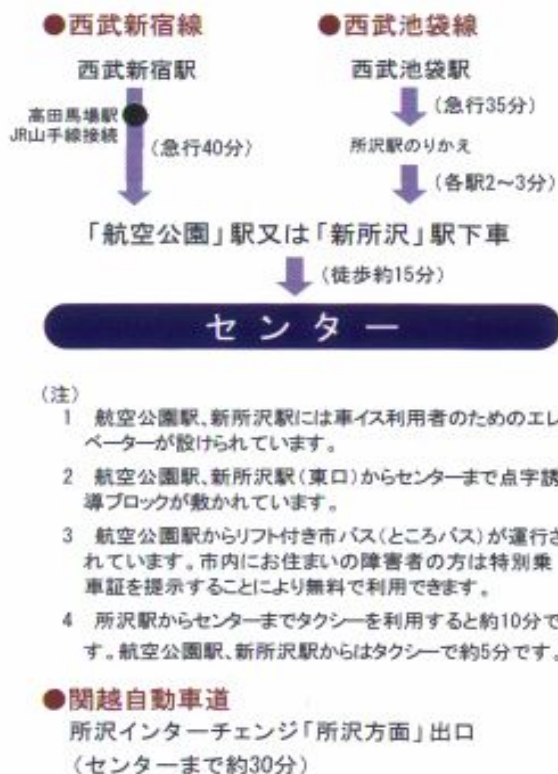
■ 国立身体障害者リハビリテーションセンター配置図



■ 案内図



■ 交通案内



国立身体障害者リハビリテーションセンター学院

〒359-8555 所沢市並木4丁目1番地
TEL 04-2995-3100代内線2660・2661 FAX 04-2996-0966



国立身体障害者リハビリテーションセンター学院
リハビリテーション体育学科